
戦友

mega

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦友

【作者名】

N1601D

【作者名】

mega

【あらすじ】

戦場での、命の削り合い。戦友たちとの、戦いの日常。戦いの中で、見えてくるものはあるのか。人が、命を賭けて戦う理由は。

私は、数々の戦場を、様々な立場で渡り歩いてきた。戦いを生業としている自分の居場所は、探さなくても済んだ。何処でも、何時でも、様々な理由から戦場は生まれていた。

その無数に存在する戦場の中で、何処でも、何時でも、変わらないことが、一つだけあった。

自分の命を、預けることのできる戦友の存在である。

「俺は、あなたのことは尊敬している。だけど、あなたのようになりたいとは思わない。」

照りつける日差しが眩しい。見渡す限り砂しか見えない砂漠のど真ん中で、私のチームは拠点を築き上げていた。

「アチイ…。本当に、こんなところに連中の武器貯蔵施設があるのかよ…。」

私の隣でぶつぶつ言っているのは、チームの副隊長である、ジャック・マクレガー中尉である。

「へイ、ジャック。あまりぼやくなよ、他の連中が見てる。」

「だつて、隊長。もう一月近くここにいるんですよ。」

確かにジャックの言つ通り、ここに来て26日目だ。通常なら数日、長くても半月ほどで本部へ撤収するのが基本であるため、今回のは長すぎる。しかし、その間に情報部の仕入れた情報に従つて、2つの敵拠点を潰した。

「隊長、これだけ探して無いつてことは、もう引き払った後なんじゃないですか？」

「ジャック、情報部の仕入れた情報が間違いだった、っていうことも考えられるぞ。」

「あー、確かに。半年前も酷い目に遭わされましたからね。」

「だからといつても、撤収命令が出なければ帰れないがな。」

「憂鬱になりますね。チームの帰りも遅いですし。」

そう、2時間前から私の部隊は新たな作戦行動を行つてゐる。

新たに情報部から送られてきた情報から判断して、今回の目的である敵対組織の武器貯蔵施設の位置を推測し、そこに一チーム放っている。それらしい施設を発見すれば中をあらため、目的物があれば即時行動、全隊を率いて制圧、武装解除を試みる。アレを起動される前に…。

ジャック・マクレガー中尉 1 (後書き)

次はいつになるのや、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1601d/>

戦友

2010年11月5日18時31分発行